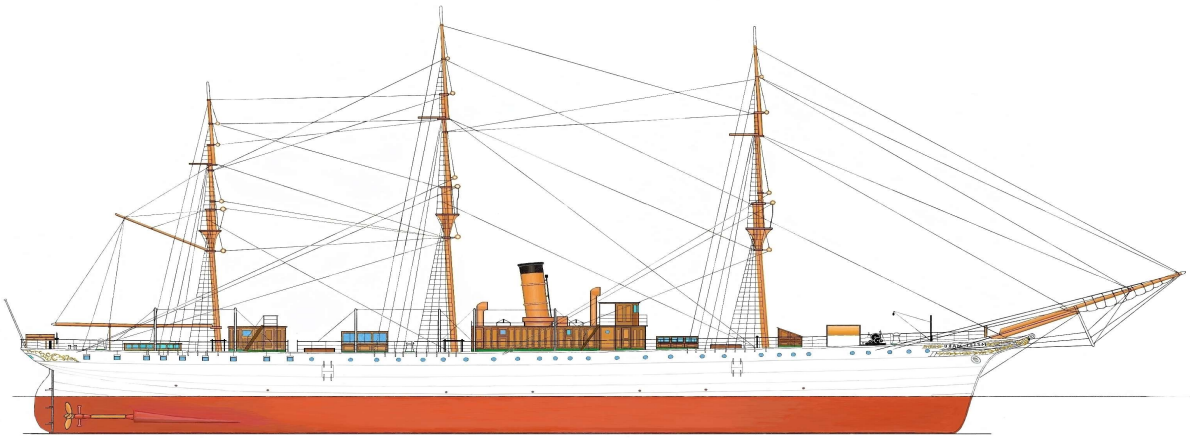
Ocean

海洋塾機関誌第15号



日本海洋塾のURL

Ocean記載のURL

令和2年4月10日

特定非営利活動法人 日本海洋塾
日本海洋塾は、世界を結ぶ海と船を、広く皆様に伝える活動により、海洋立国意識の拡充を目指しています。

§平成 31・令和元年度活動状況と令和 2 年度活動方針のお知らせ§

理事長　都築雅彦

平成 31・令和元年度は、平成令和の改元とオリンピック準備で、明るい期待が在ったのも年末までで、年明けからは新型コロナウィルス災害が世界に拡大し、各法人は年度更新に頭の痛い状況と思われますが、この会報がお手元に届くときには、令和2年度になっていますので、前年度の活動状況と新年度の活動環境と方針を、会員諸氏にお知らせし、海洋塾事業の発展にご協力いただきたいと思います。

1、平成 31・令和元年度活動状況

当塾の活動は海洋大の「明治丸海事ミュージアム事業」に深く関連していることから、毎年前期に実施される「海王祭」「海の記念日事業」に影響され、この時期には明治丸への来観者が多くなることもあり、これに合わせた船内保守整備を重点にしてきました。
また、インターネットサイトのコンテンツを充実し、海事情報の発信、ミュージアム事業の状況発信、海洋会ボランティアクラブの情報発信など、ネット環境を活用した広報に努めてきました。

①主力活動である「明治丸保守業務」については、定例業務に加え、時間を作って展示部品の取り外し点検整備等を手掛け、船内雰囲気がかなり美しくなりました。
②「明治丸グッズ販売」（海洋会ボランティアクラブと共同事業）も例年の売り上げとなりました。
③他団体との連携事業として、
・大学海事普及会新会員に対する「港と船を知るセミナーとツアーを実施、
・羽田航空少年団の明治丸広場でのイベントへの協賛、
・視覚障碍者向けの船に触るツアーも実施することができました。
・ただし、毎年３月に恒例となった江東区観光協会主催の「さくらまつりアー」のためのガイドに対する研修会と塾員による特別ガイドは、新コロナの影響により残念ながら中止となってしまいました。

2、平成 31・令和元年度の財務予測

当年度は一部事業がなくなったこともあり、経費の削減による収支バランスを目標としましたが第４四半期のコロナにより観光協会業務がなくなったため、平成３０年度と比べ大幅減収となります。

会費収入	（管理部門事業・受取り会費）	（100 千円）	
明治丸保守	（整備保全事業）	（930 千円）	
物品販売	（文化財利活用事業）	（150 千円）	
講演料等		なし	（計 1,180 千円）

経費としては、収益に対応して削減した結果（1,200 千円）を予測しておりますので、多少の減益となります。

3、令和2年度の事業計画案

新コロナウィルスの世界的感染拡大が続いており、外出、集会、イベント、学校授業の自粛、中止などから、活動を収縮せざるを得ない状況が夏ほどまでは続くとみて、周辺状況を見ながら感染防止の業務体制で対応することとします。

定常の業務活動（明治丸整備保全、会報・ホームページなどの広報、物品販売、観光協会等との協業、他）については、関係者との関係を密にし、先方事業活動と一体を目指すことを基本に、

・明治丸事業については、今年度は船橋室等の補修工事が予定されており、この作業の進展に合わせた保守整備作業を実施することとします。
特に、前年度に上甲板の防水工事が実施されたものの、依然として船内への漏水が見られることから、保守整備の一環として漏水処理を実施することとします。
業務料については、明治丸公開、海王祭の中止、海の日記念行事の中止予想などから、前期作業予定で上甲板全般の清掃作業を減少する計画のため、年間業務料が5％ほど減収となります。

・また、明治丸関連グッズの販売については、来館者を含め、より多くの人々の目に触れ、購買意欲が高まるような手法を検討することとし、とりあえず、「ポンポン船明治丸」の手作りキットも商品に加えるよう準備中であるが、販売体制についても検討したい。
ただし新コロナのため公開日が大幅に少なくなり、来観者も大幅に少なくなることが予測されるので、前年の30％ほど販売を予測しています。

・江東区観光協会については、新コロナによる活動自粛とオリンピック延期の影響などに注意していくこととします。

・インターネットサイトについては引き続きサイトの充実と有効利用を目標にして充実することを目標とします。

しかしながら、今年は新コロナ自粛が強く求められることから，苦しい経営状態が続くと予測されるため、会員諸氏全員の御支援御協力を得ながら運営していくことといたしますので、
よろしくお願いいたします。

以上

§商船学校寮歌「白菊の歌」余話・続§

正会員　佐藤勝二郎

1. 映画主題歌「白菊の歌」の発見

商船学校の寮歌「白菊の歌」に関して調査をする過程において、国会図書館のデジタル資料に、流行歌手「春日八郎」の「白菊の歌」が収録されていることが分かり、試聴した。そして、その音源を探し求めていた。

旅行計画をしている中で、福島県の会津坂下町に「春日八郎　おもいで館」があることを知り、訪問して確かに「春日八郎」が昭和 30 年 1 月に映画主題歌としてレコード「白菊の歌」と「海の若人」をリリースしていることを確認した。

映画名は明記されておらず、商船大学の先輩方が語っていたのを思い出し、調べたところ、雑誌“平凡”に連載された海洋小説「海の若人」が映画化されたものであり、中村錦之助主演の東映映画であることが分かった。

映画はビデオ化されていたので、VHS ビデオを購入して観たところ、「春日八郎」の登場シーンは無く、彼のレコード曲はひとつも歌われておらず、その理由を今後の調査課題にすることを、前号（Ocean14 号）に記した。

２．海洋小説「海の若人」が連載された雑誌“平凡”

東映映画「青春航路・海の若人」は、歌と映画の娯楽雑誌“平凡”に昭和 30 年 1 月号から 5 月号まで連載された、鬼怒川公望原作の海洋小説「海の若人」を映画化したものである。

作者「鬼怒川公望」はペンネームであり本名は「茂在寅男」氏である。「平凡」の 1 月号から 3 月号までは、国会図書館のデジタルコレクションで閲覧が可能であり、次ページに本誌内の見出し、カット写真などを紹介する。

1 月号若尾文子

2 月号岸恵子

3 月号野添ひとみ

4 月号千原しのぶ

小説の登場人物　山里英一郎・・商船大学 3 年生・・・・・中村錦之助
宮崎航海士・・先輩・・・・・・・・・・・春日八郎
宮崎雪枝・・・先輩の妹(女子高生)・・・天路圭子
夏子・・・・・キャバレーホステス・・・日野明子

この映画では宮崎航海士の役で出演します
どうぞよろしく
春日八郎

原案　商船大学助教授
指導　茂在寅男

東映映画化

中村錦之助主演
春日八郎特別出演

この小説は僕の第一回の現代劇として映画化されます　ご愛読の上皆様のご意見をお聞かせください
中村錦之助

錦ちゃんの現代劇第一回作品　　一月号

全日本海員の話題を呼び　錦之助ファンの注目の的となった壮快篇
いよいよ最高潮！！　　三月号

1月号

1月号

2月号

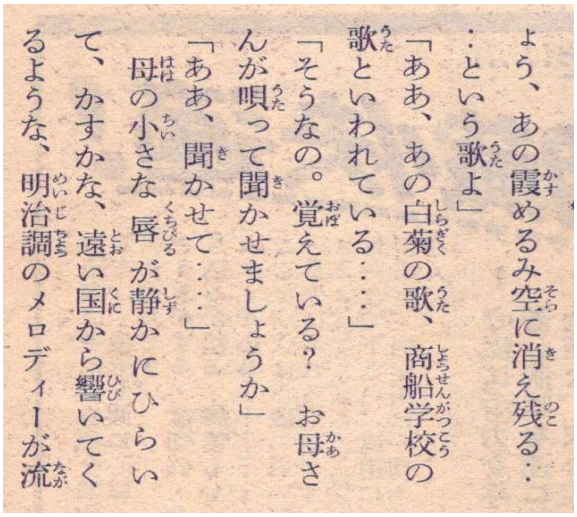
3月号

“平凡”4 月号は昭和 30 年 4 月 5 日発行であるが、「海の若人」の連載小説のページの見出しには、相変わらず**＜この小説は　ぼくの第一回現代劇として映画化され　春日八郎さんが特別出演してくださいます　どうぞご支援をお願いします　中村錦之助＞**と大きな見出しがある。

また、4 月号では、右のように「白菊の歌」を主人公の母親が口ずさむシーンが描かれているのである

映画は既にクランクインされているのにキャスト変更については何も触れていない。

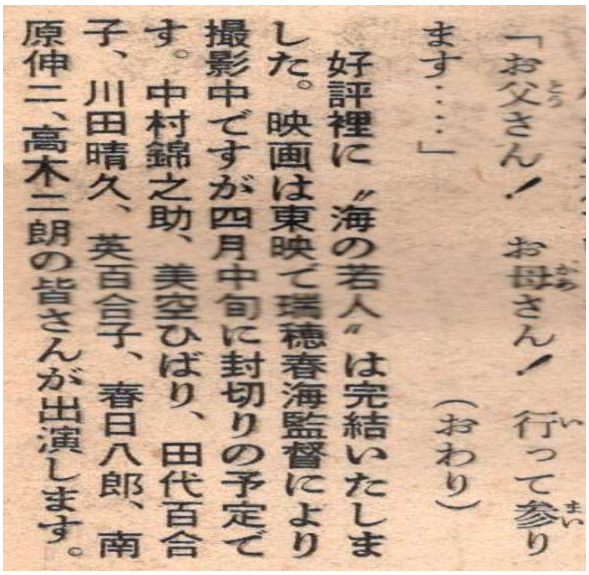
「春日八郎」の出演シーンが無く主題歌が消滅しているのに、小説は 5 月号に（続く）となっていた。ここで、調査を打ち切るのは悔しいので、さらにネットで販売されている“平凡”5 月号を購入した。


よう、あの霞めるみ空に消え残る・・・という歌よ」
「ああ、あの白菊の歌、商船学校の歌といわれている・・・」
「そうなの。覚えている？　お母さんが唄って聞かせましょうか」
「ああ、聞かせて・・・」
母の小さな唇が静かにひらいて、かすかな、遠い国から響いてくるような、明治調のメロディーが流

期待を込めて、5 月 5 日の発行の 5 月号を開くと、目次のページの裏には、「春日八郎」の主題歌「海の若人」の楽譜と歌詞が紹介されており、小説末尾の（おわり）の横の欄外の見出しには、「春日八郎」を含む映画出演者が紹介されているのである。既に 4 月 17 日クランクアップ、4 月 19 日に映画館で封切り上映されているのに、何の説明もなく連載終了（おわり）となっている。

また本誌には＜涙の王座・春日八郎物語＞というタイトルでデビュー前後の「春日八郎」の紹介記事が 4 ページもある。そこには**＜「海の若人」船員姿もりりしい春日八郎さん＞**のカット写真も載っているのに、キャスト変更に関して一切何も説明していない。

5 月号北原三枝


「お父さん！　お母さん！　行って参ります・・・」
（おわり）
好評裡に〝海の若人〟は完結いたしました。映画は東映で瑞穂春海監督により撮影中ですが四月中旬に封切りの予定です。中村錦之助、美空ひばり、田代百合子、川田晴久、英百合子、春日八郎、南原伸二、高木二朗の皆さんが出演します。

３．流行歌手・春日八郎の「白菊の歌」と「海の若人」は・・・

“平凡”2 月号の囲み記事で、主題歌は「海の若人」だけが春日八郎唄、高橋掬太郎詞で左のように紹介されている。最初の項で述べたようにキングレコードから「白菊の歌」と「海の若人」は１月にカップリングでリリースされているのである。

「白菊の歌」の音源コレクターを自認する筆者は、東京神田の古書店街にある古レコード店に探しに行き、最初の店には無かったが、親切な店員が他の店に問い合わせてくれて、幸運にも簡単に購入することが出来た。レコードには歌詞カードが添付されておらず、念のためネットで探してみたら楽譜（歌詞）が販売されており購入した。

海の若人

高橋掬太郎 作詞
江口夜詩 作曲
春日八郎 唄

一、海は男だ　男の夢だ
鷗うたえよ　青潮に
愉快ぢゃないか　船出の朝は
金の扇の　陽が招く
僕等は　海の若人だ

二、海に生きろと　親父が言うた
かわいあの娘も　また言ふた
愉快ぢゃないか　希望の航路
揺れるマストに　胸が鳴る
僕等は　海の若人だ

三、海にあこがれ　海見て暮らす
若い生命に　散るしぶき
愉快ぢゃないか　男の心
今日も万里の　波にとぶ
僕等は　海の若人だ

歌謡曲　海の若人

白菊の歌　商船学校寮歌

４．映画の主題歌は誰の作品か

実際に映画で流れる音楽は、挿入歌の駿河湾巡航歌「さらば三保の松原よ」と美空ひばりが口ずさむ歌名不詳の歌と「海の若人」だけであり、「白菊の歌」は登場しないのである。

映画で流れる主題歌は「木下忠司」作詞作曲のものであり、冒頭のオープニングシーンと練習船出航のラストシーンの外に何回も挿入されている。

「木下忠司」は映画監督・木下恵介の弟で多数の映画音楽を手掛けており、映画「喜びも悲しみも幾年月」の主題歌や、テレビドラマ「水戸黄門」の主題歌の作者でもある。

歌詞カードは入手できなかったので聞書きをしているが、三番では美空ひばりと中村錦之助のセリフが重なり歌詞が不明な部分がある。

海の若人

木下忠司作詞作曲

おも舵とり舵
とも綱解いて
若い僕らの憧れのせて
錨を揚げたら出発だ
船は海原越えてゆく

沖は潮風　僕らの頬は
真っ赤な色して焼けるとも
思い出す出す出船の朝を
白いハンカチ目に浮かぶ

風をはらんだ水面を見れば
・・・・・・・・・・・・
帰るつばめよ伝えておくれ
今日も明日も元気だと

赤字は脱字修正です

５．「白菊の歌」はなぜ消えた・キャストの変更顛末

キャスト変更の経緯を“平凡”から知ることが出来なかったので、映画雑誌「キネマ旬報」4 月下旬号を調べると、映画紹介ページでスタッフとキャストと筋書きの紹介のみで、“平凡”の前宣伝とは異なるキャストや「春日八郎」が消えたことの論評は見当らなかった。

青春航路　**海の若人**

企画・・・・・・坪井　与
同・・・・・・・福島　通人
同・・・・・・・小川三喜雄
脚本・・・・・・舟橋　和男
監督・・・・・・瑞穂　春海
撮影・・・・・・佐藤　三郎
音楽・・・・・・木下　忠司

配役

山里英一郎・・・中村錦之助
同　康子・・・・英　百合子
宮崎雪枝・・・・美空ひばり
同　信義・・・・高木　二朗
同　よしえ・・・川口　節子
高峰慎二・・・・南原　伸二
横井　剛・・・・船山　汎
田岡信夫・・・・星　十郎
芸者力丸・・・・田代百合子
お　玉・・・・・中原ひとみ

ネットのブログ記事「錦之助ざんまい」には、映画に関して詳しい論評はあるが、「春日八朗」と主題歌の変更に関しては触れていないのである。

【「美空ひばり」が「中村錦之助」との共演を望んだことからキャスティングや監督の選任に紆余曲折があり、商船学校のモデルの商船大学とは協議整わず非協力であった。その結果、ロケの海岸シーンは沼津海岸に変更となりヨットの手配も困難であった】とある。また【クランクイン 2 月半ばの予定であったものが、クランクイン 3 月 17 日、クランクアップ 4 月 17 日、封切り 4 月 19 日で完成した】と書かれている。

レコード会社のキングレコードに問い合わせたが、返事は古いことで分からないというものであった。また、映画会社・東映にも問い合わせたが回答は得られなかった。

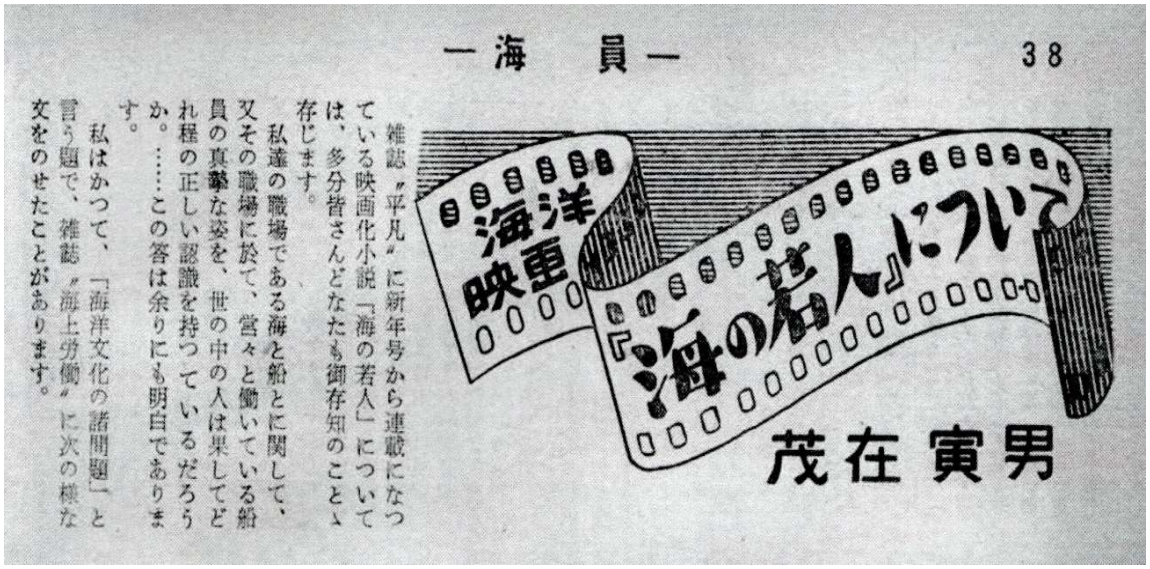
福島県会津坂下町の「春日八郎　おもいで館」にも、情報の有無を問い合わせたが、返事は無かった。

小説掲載の“平凡”と東映映画ではスタッフ・キャスト・主題歌の食い違いがあり、関係者間でどのような形で決着をつけたのか大いに興味があるが、興行世界のことであり、筆者の商船学校寮歌「白菊の歌」研究の範疇から外れ、これ以上の調査は時間と経費が掛かるので、あとは余人に委ねるものである。

☆補足と蛇足☆

１．映画に関する論評

全日本海員組合機関誌“海員”1955 年（昭和 30 年）2 月号に茂在先生が『海洋映画「海の若人」について』と、2 ページ以上に亘って記しており、先生の此の映画に掛けた想いを知ることが出来る。



一海　員一　38

海洋映画『海の若人』について

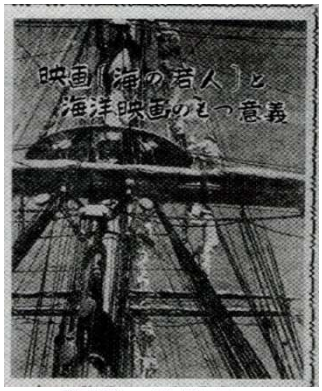
茂在寅男

雑誌〝平凡〟に新年号から連載になつている映画化小説「海の若人」については、多分皆さんどなたも御存知のことゝ存じます。

私達の職場である海と船とに関して、又その職場に於て、営々と働いている船員の真摯な姿を、世の中の人は果してどれ程の正しい認識を持つているだろうか。……この答は余りにも明白であります。

私はかつて、「海洋文化の諸問題」と言う題で、雑誌〝海上労働〟に次の様な文をのせたことがあります。

また、同じく全日本海員組合機関誌“海員”1955 年（昭和 30 年）6 月号には、組合の教宣部・M・Y 氏の『映画〔海の若人〕と海洋映画のもつ意義』と題する論評がある。



海員　6 月号

光文社発行の“面白倶楽部”1955 年（昭和 30 年）7 月号の「流行歌ヒットアルバム」のページには、高橋掬太郎詞「海の若人」が春日八郎の写真付きで紹介されているが、映画のキャストや主題歌変更に関しては何の論評もされていない。

“日本映画音楽の巨星たちⅢ　木下忠司　団伊玖磨　林光”小林淳・ワイズ出版の「木下忠司」の項では、「海の若人」に関しての論評は無く、作品リストに載っているのみである。

ネットのブログ“錦之助ざんまい”
https://blog.goo.ne.jp/sesamefujii/c/5b77238d404b8d26a70bd8f9f9cfa430

２．春日八郎のレコードリリース曲

「赤いランプの終列車」	昭和 27 年
「お富さん」	昭和 29 年
「海の若人」	昭和 30 年 1 月
「白菊の歌」	昭和 30 年 1 月
「別れの一本杉」	昭和 30 年 12 月

３．木下忠司の映画音楽

「伊豆の踊子」	昭和 29 年
「二十四の瞳」	昭和 29 年
「野菊の如き君なりき」	昭和 30 年
「海の若人」	昭和 30 年
「喜びも悲しみも幾年月」	昭和 34 年 10 月

§「明治丸」との出会い・・そして「雲鷹丸」§

正会員　松﨑　光男

まさか、商船大学に入学するとは考えてもみませんでした。

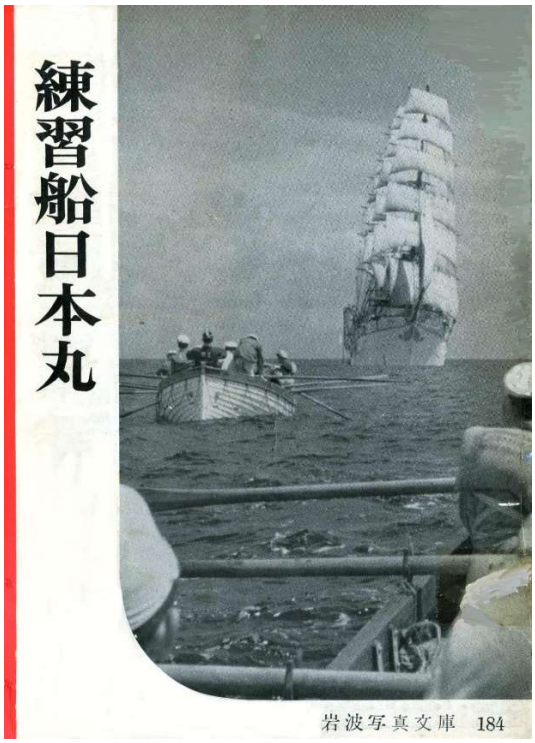
昭和 20 年 4 月に、東京都文京区大塚で空襲に遭い、父の姉が嫁いだ先を頼って避難した所は千葉県松戸市、そこで終戦の日を迎えました。その後、10 月には父が生まれた東京都千代田区神田に帰ってきました。私の家は、代々東京（江戸）住まいで、田舎がありません。三代前の当主は、深川に屋敷がありましたが、日清戦争で戦死した為、深川不動の境内の公園にある、「深川区から日清戦争に出征して亡くなった勇士の鎮魂碑」に名前が刻まれており、お墓は清澄公園の傍の「妙心寺」にあります。
後で考えると、深川には何か縁があったのでしょう。

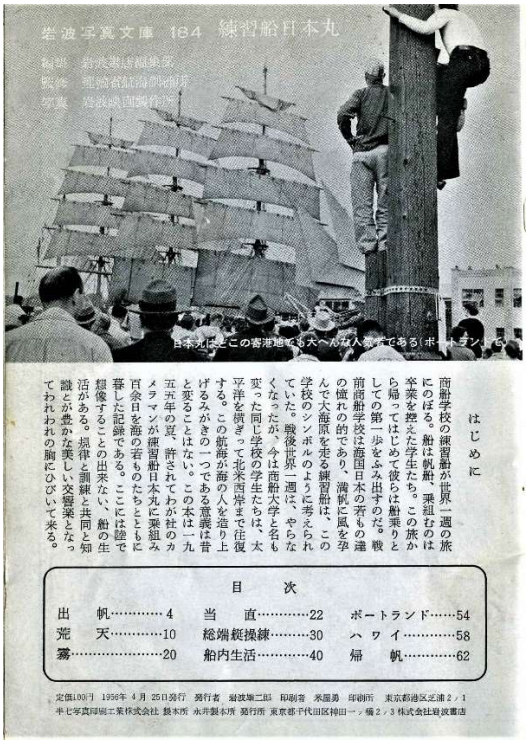
昭和 22、23 年（1947～48 年）頃には、永代橋の脇から「大発」と呼ばれた、日本軍が残した一枚底の木造の上陸用舟艇に乗って、焼玉エンジンの音と共に「夢の島」に海水浴に行きました。永代橋の西詰下流側にあった倉庫脇の岸壁には、英国かオーストラリアか、星条旗以外の国旗を掲げた駆逐艦が進駐軍として係留停泊していました。その脇から「大発」に乗り込み、出航すると間もなく、見慣れない形の白い船が目に入りました。後で考えると「明治丸」でした。
因みに、「夢の島」は昭和 13 年（1938 年）に「東京市飛行場」建設の目的で埋め立て工事が始まり、当時としては世界最大級の飛行場となる計画でしたが、日中戦争が始まり遂に昭和 16 年（1941 年）に工事は中止となり、戦後間もなくはゴミも無く、遊園地等があり、海水浴は勿論、ハゼ等の魚を獲ったりすることができました。1950 年代に入り東京都のゴミが急増し、1957 年にその埋め立て処分場となった為に、大量のゴミが持ち込まれ、埋め立て処分は 1967 年まで続きました。

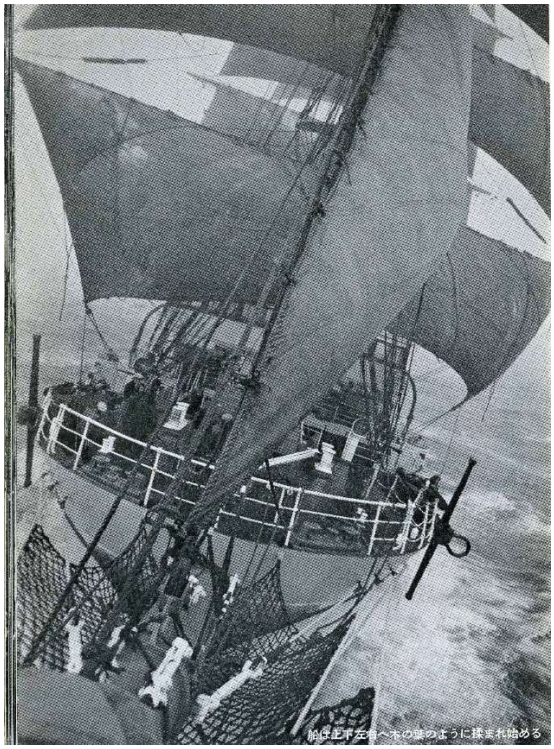
少し長じて、中学生の頃になると、釣り好きの父に連れられて、浅草橋辺りの船宿から釣り船を仕立てて、ハゼ釣りに行くようになりました。仕立てた釣り船で永代橋、相生橋をくぐり、辰巳水門方面に左転すると、左側に白い船体の同じような船が二隻見えるようになりました。後に分かったことですが、もう一隻は「雲鷹丸」です。
当時は木場と呼ばれ、水面一杯に太くて長い丸太が係留されており、釣り船が通る度に立てる波が丸太に押し寄せ、丸太の上を越して消えていく光景が面白かったことを覚えています。

高校生になっても、釣り船でのハゼ釣りは続き、2 隻の帆船の前を通る度に、注目するようになりました。同時に、この場所が昔からの商船学校であると認識しました。
私が通っていた都立西高は、当時、進学校として、日比谷、新宿と云った都立高校と覇

を競っており、周囲は皆が東大を目指しているようでしたが、私は進学先については、漠然としか考えて無く、寧ろ必死になっている周囲に反発していました。
そんな時、休講となった時間に図書館で何気なく取り上げた本が岩波写真文庫でした。いくつか手に取って見ていく中に、帆船「日本丸」の写真集がありました。すぐに隅田川沿いの二隻の帆船とイメージが重なり、帆船による大洋航海は、きっと素晴らしいに違いないと、強く興味が湧きました。

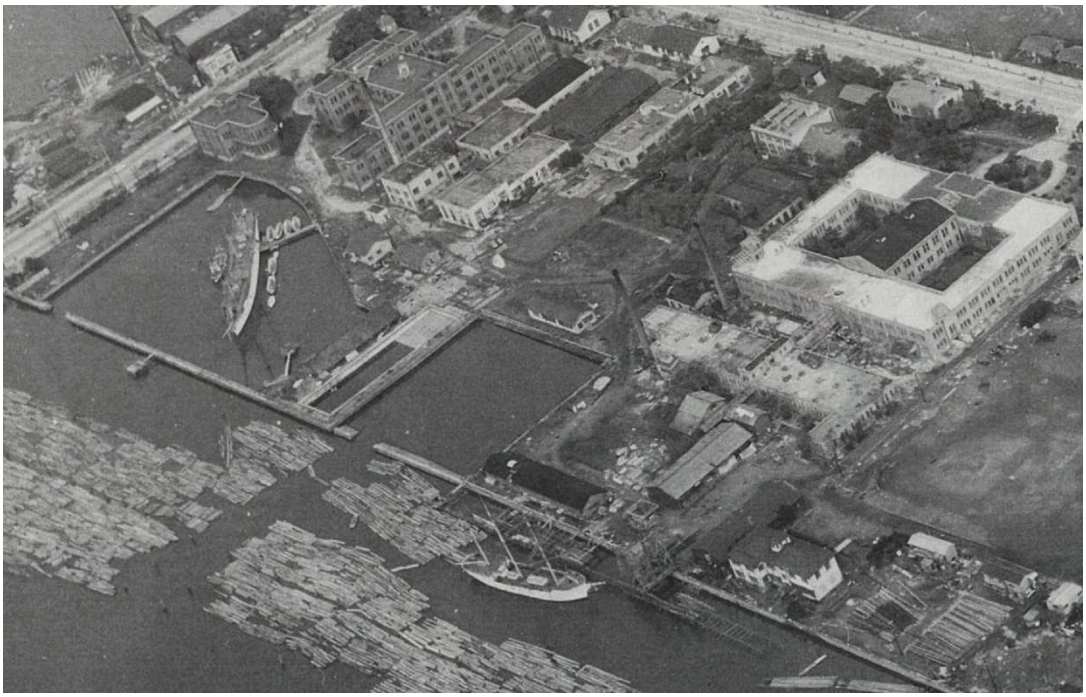






（岩波写真文庫　＃184　「練習船日本丸」の一部）

結果として、その時のインスピレーションのまま、東京商船大学に入学し、「海王丸」で素晴らしい大洋航海（遠洋航海実習）を経験しました。



（昭和 35 年当時の　東京商船大学　左上に「明治丸」、下に「雲鷹丸」）

入学してからは、「木曜会」に籍を置き、授業が終わると略々毎日「海岸」と称するポンド周りに行き、夕暮れまで、現理事長の都築君等と一緒に、カッターのプーリングやセイリングをしていました。

（　昭和 35 年頃の「雲鷹丸」の状況　遠くに見えるのは「相生橋」　）

「雲鷹丸」を近くで見ると傷みが激しく、水船に近いような状況で、「幽霊船」の如き状況でしたが、前々から気になっていた船であり、何とか乗船して探検したいと考えてい

ました。しかし、上の写真からも分かるように、ポンドの周辺は、貯木場となっていて、大きな丸太が係留されており、「雲鷹丸」にはカッターで行くことが出来ません。
そこで、海岸に半ば放置されていた伝馬船を整備して、行くことにしました。
漸くの思いで、木曜会の仲間と「雲鷹丸」に行くことができ、何とか乗船してみましたが、予想したとおり、本船は水船状態で擱座しているようで、勿論、傷みも酷く、所々に穴のある上甲板のみがやっと歩ける状態で、デッキ下には入れない状況でした。

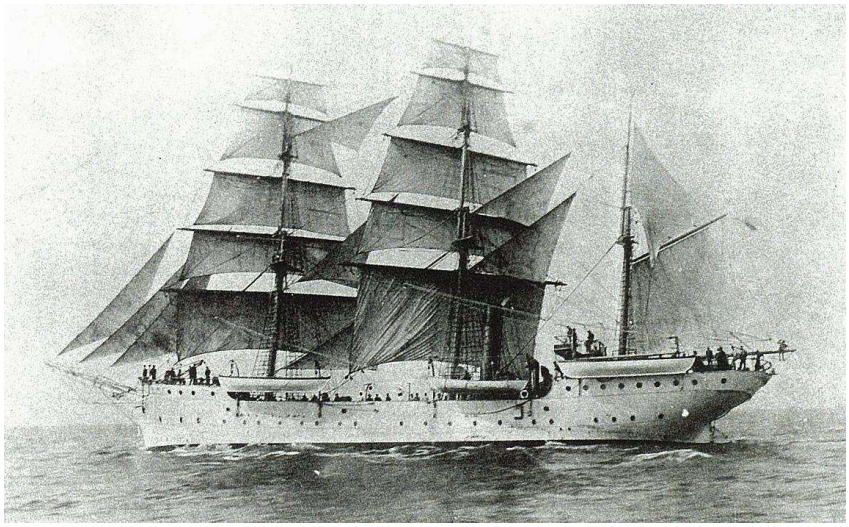
その時は、余り気にしていなかったのですが、昭和 37 年（1962 年）頃から隅田川沿いに防潮堤の建設が始まり、「明治丸」のポンドも閉鎖されることになった頃、「雲鷹丸」の上半身（喫水線から上の部分）がバラバラに切断され、スクラップのように艀に積まれて寂しく曳かれていきました。後で分かったことですが、品川の東京水産大学へ運ばれて、陸上に復元されたのでした。

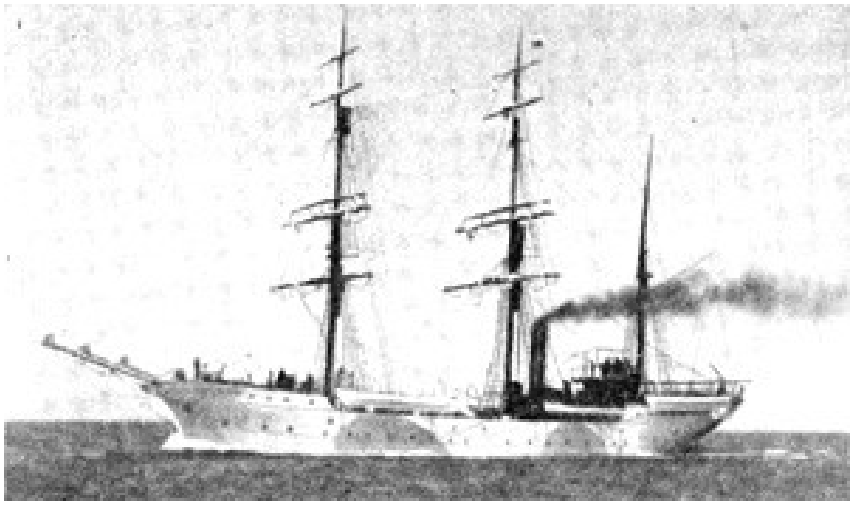
会員の皆様は良くご存じのこととは思いますが、ここで「雲鷹丸」について、改めて整理しておきます。（参考参照資料：東京顔用大学 HP　他）

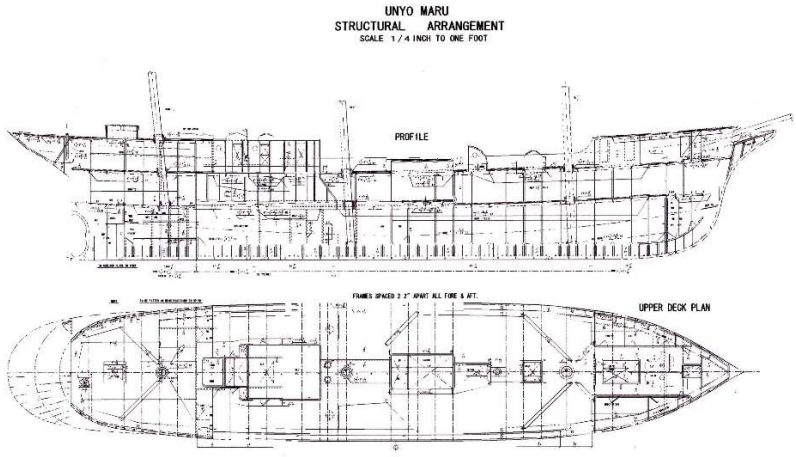
- 「雲鷹丸」は、東京海洋大学品川キャンパス内に、喫水線から上の部分が復元され、1998 年に国の登録有形文化財に登録され、陸上保管されています。（羽田空港に行く高速道路から見えますので、時々間違って「明治丸」だと思い込む人がいますので、要注意）
- 本船は、「農商務省水産講習所」所有船として、明治 42 年（1909 年）2 月 21 日、大阪鉄工所桜島造船所（後の　日立造船　桜島工場）にて進水。同年 5 月 12 日竣工
- 主要目　鋼製　二層重甲板　三檣バーク型帆船（補助機関付）
  総トン数　444.25　トン　　排水量　227.91　トン
  全長　41.51 m　全幅　8.55　m　吃水　3.7　m（元の寸法は、尺）
  補助機関　レシプロ式三聯成　　出力　303 馬力
  汽缶　スコッチ型　2 基
  石炭積載能力　100 トン
  ４翼プロペラ推進器　１基
  速力　機走時巡行速力　8.5　ノット
  士官ベッド　15 床　　属員ベッド　26 床　学生ベッド　40 床
- 本船の設計は、東京帝国大学　寺野清一工学博士　他の日本人の手により行われたが、帆装部分はイギリスに発注した模様。
- 三檣バーク型としたのは、当時一世を風靡した、米国式捕鯨船を模したものである。
- 船首楼及び船尾楼を有し、船尾楼には士官室、士官会食室、配膳室が、船首楼には、蒸気式揚錨機、その両側に水夫長室、学生及び水火夫の浴室便所、冷蔵機室があり、第二甲板船首部には水火夫室が配置されている。
- 機関室内には、主汽缶１基とドンキー汽缶を有し、船内灯火用発電機を備える。
- 石油発動機で駆動するアンモニア式の冷蔵機で、船首艙前部にある冷蔵室に冷気を送

っていた。

- 機関室内には、５屯蒸発器及び三百ガロン蒸留器を備え、海水より必要な淡水を造っていた。
- 蒸気操舵機を備えていた。
- 外舷には、28 フィートの捕鯨艇及び 32 フィートの巾着網用漁艇、計 6 隻を吊るしていた。







「雲鷹丸」は、明治 42 年の竣工以来、昭和 3 年（1928 年）まで、36 次に亘る実習・調査活動を行い引退したが、昭和 7 年８1932 年）には、船内一部を補修改修のうえ、操帆訓練船となり、戦時中まで操帆訓練を行いました。　この間に、

- 大正 1 年（1912 年）7 月 18 日、金華山沖にて捕鯨実習中に捕鯨艇が転覆して、学生 2 名が遭難する事故があり、以降、捕鯨実習は中止となった。
- 大正 8 年（1919 年）に船内に缶詰製造設備を設置し、沿海州沖合に出漁、我が国で初めて、船内で蟹の缶詰 20 個を製造し、船内缶詰加工の先駆けとなった。
- 大正 9 年（1920 年）12 月、土佐沖にて運用実習中に、学生がマストから転落し、重傷を負い、翌日に亡くなった事故が発生したと記録されている。
- 大正 12 年（1923 年）の関東大震災では、水産講習所の校舎は灰塵に帰したが、月島 3 号地に停泊中の「雲鷹丸」には、火の付いた船が流れて来たり、大量の火の粉が降り注いだが、全員で類焼を防ぎつつ、市民 500 人余を収容して助けたと記録されている。

こうやって歴史を翻ってみると、「雲鷹丸」も、「明治丸」も辿った道は違うけれども、結果として同じような運命を辿り、現在は終焉の地で文化財として、広く国民の皆さんに大事にされて余生を送っており、お隣同士だった学校が一時分散し、また、いつの間にか統合され、一つの大学になったのも、二隻の帆船の取り持つ縁なのかと考える次第です。

以上

§肥田浜五郎米国上陸§

正会員　澤間譲治

万延元年（１８６０）旧暦２月２６日、前号で紹介して来た様にブルック大尉以下１０人の水夫の絶大なる助けを借りながら、肥田浜五郎一行は無事にサンフランシスコに到着し、早速上陸する事になった。当時は日本人の漂流者（中浜万次郎など）を除けば、正式に国を代表する形で米国を訪問した初めての日本人であったから、米国人にとっても大変興味をそそられる出来事であったと思われる。

浜五郎自身は記録を残していないので、直接彼の言葉で当時の優秀な知的青年が、米国の開化ぶりを見て、どう感じたかを知ることが出来ないが、勝海舟が『海軍歴史』によって、その様子を書き残している。
すべてがもの珍しかったと思われるが、特に造船局、機械製作所、修船場などを念入りに見て回ったことが伺われる。
『海軍歴史』の文中「造船局」の記載箇所を引用すると
『２月２９日メールアイランドへ出船、測量船将エルデン他士官３名同行、咸臨丸の破損の修復をするためである。ここはサンフランシスコから港内海上７里(注=約２７．３キロ)ばかりのところにあり、 ヘリユホー川岸の出州で小島になっている。昔はイスパニア所属の地であったが、最近米国合衆国の所属となり、全島軍艦製造、諸物器械の貯所となり、合衆国の首府から海軍の総督１名、カピタン１名、その他士官、下士官、機械工数人をおき、また島の北岸に航海不能の大軍艦１艘をつなぎ、ここにカピタン１名、土官２、３名を置いて見張りをしている。この島の東は小丘、西は川の源に沿って洲をなして、東西１里(注=約３．９キロ)ばかり、南北７、８町(注=約７、８百メー トル),その北岸にドックおよび武器工作庫三を建て、船舶の修理にあてている』と記載されている。

３月３日、成臨丸は遠洋航海のための故障個所修理の為に、「ドック」 に入った。士官たちは総督のとなりにあった旅館に入ったらしい。ここは米国士官の住む家であったが、当時米国士官が留守で、空き家となっていたので、これを借りて宿舎とした。

３月８日、わが国の使節およびカピタンたちをのせたポータハン号がサンフランシスコへ着いた。
肥田らは早速夕方たずねていったが、その際、今回成臨丸へ乗船した米国水夫のうち、５人だけ帰路も成臨丸へ雇い入れるよう、総督コムドールおよび次官に交渉して承認をえた。翌１３日には、サンフランシスコに滞在していた米国軍艦インゼベンゼ

ンズ号船将ビーゼルが来訪。さらに１６日には成臨丸の重立った者が、わが使節の乗ったポータハン号に行って別れのあいさつをした。翌日ポータハン号はワシントンへ向かって出帆した。
３月１０日には成臨丸の修繕が完了した。咸臨丸の修繕費はいっさい米国大統領から日本大帝（将軍のこと）のために献呈するとのことであったので、少ないが工事のために働いた人々に慰労として、いくらか進呈しようと申し入れたが、それも承諾されなかった。いかに当時の米国政府が咸臨丸一行の来訪を歓迎していたかが窺い知れる。そこでカビタン・マッキンガルに相談し、当地の寡婦に贈与することにした。
３月１１日には船をサンフランシスコへ回したが、日本の水夫の中で大病で乗船できないものが８名も発生してしまい、そのための看護人２人を残し、病院へ入院させる事になり、全快次第、便船で日本に送り帰すよう依頼した。
なお咸臨丸の水夫で死亡した２名は、同地の墓地に埋葬した。
日本の軍艦および日本人がアメリカに来たことは、アメリカにとっても重大事で、とくにサンフラソシスコでは町をあげて歓迎し、まるでお祭り騒ぎであったらしい。日本人は好奇の目をもって眺められたと思うが、一般に好評であったようである。『海軍歴史』には当時のサンフランシスコの新聞の妙訳が掲載されているが、ここにその一部を紹介して当時の空気を感じ取る事が出来る。

【日本の捻仕掛けの蒸気船が湾内から港内へ入って来る。その状況は中柱の上に国の印の総白の真中に朱の丸をえがいている。また艫柱の上には白い五角の赤丸の旗があり、これは将官の旗である。この軍艦は至極おだやかな走り方であるけれども、日本使節の乗組んだ船よりも先に着いた。後の人々は 合衆国の蒸気軍艦ポータハン船で来るそうで、入港を待っている。また捻仕掛の蒸気軍艦（咸臨丸）がわが国にきたのは、彼の国で最初の船である。ただただ日本は鎖国をして他国へ船を出すことを許さなかったのに、まことに珍しいことである。この船はポータハンの着くまで待ち合わせ、使節が着いたらまもなく帰国するという。
この船中に合衆国船将ブルックならびに役人カーン、水夫９人が乗っていた。彼らは合衆国の小船ヘネモハリア号に属し、数ヵ月以前に日本海浜で船が破損したので、このたび便乗して、水夫の助手をしながらサンフランシスコについてきた。日本軍艦はレレヨマチ町着船場の沖へ日暮れ前に碇泊した。当港市中では珍しがって見物人が遠くから群がった。
この船の長は木村摂津守、船将勝麟太郎、キャブテ万次郎、助役ルテナント佐々倉桐大太郎、オキヨモン勇平、友五郎、鉄太郎、磐吉、蒸気機関頭取浜五郎、金次郎、蒸気部屋役人四人、医者三人、水夫七十人である。ただし石炭は９日分だけ積み込み、蒸気を用いたのは船から山が見えなくなったところまでという。航海中も湿気のため

悪い天気に出遭ったが、ついに快く悠々と凌ぎ、ときには一日帆で二百里走ったという。
着後は米国の水兵たちへ、航海中の助力の骨折り代として立派な金を与えた。昨日は多くの役人が日本船に参り、また今日も同様数人来た。その人たちは日本人からていねいなあいさつを受け、よろこんでいた。日本の乗組員たちは来船した人を珍しい風俗と思い、また米人の方でも船中がすべて珍しく見え、水夫はまめにして健康そうに働き、かつ頓智よく、悟り早く、船は規則正しくてきれいであった。
また船中に乗り込んだ米人の話によると、水夫は使いよく働くが、海上には鍛線が足りないと見えて、日本を出帆後最初は諸事ととのわず、さらに悪い天気が続いたためか、一同ひどく疲労した。彼らはみな、このたびのことで乗船の法則を覚えた。また船中には仏道の拝礼に似たようなものはまったく見なかった。そして役人方の服は黒糸で然った羽織と裾の広い袴を着ている。履物はきれいなゆたかなサングルをはき、また端物のきれをもって、羽織の肩と肩との間につけたものは符号および官職と思われる。
人々はみな交替で勤務についている。役人一同は塗物鞘の刀を二本ずつ差し、また一同頭の毛は気にかけず、ビンは油を用い、頭上に上げて結って置く。すべてその人の衣服は清国人の富者の服に似ているが、また米人の風俗にも少し似ている。また奉行は頭上より足の指先に至るまで、貴人の相貌があり、数多の家来を使っている。家来は何か命ぜられるときは首をさげて命を受け、また下の者から奉行へ直接に話すことはなく、重役の者より取り次ぐので、規則正しい。諸役人、水夫たちはオランダ語を用いていた。日本人の食料は米と、魚は胡麻の油で揚げたのを食べる。野菜物は乾したり漬物にする。また茶、砂糖を好み、粘のような柔らかいものも堅いものもよくなれて、自由に箸でもって食べる。また食卓や椅子などは日本人には不要で、乗組みの米人は船将部屋を借りて食事をした。また奉行の居開には合衆国の大統領ブカナンの像を紙に写してかけてあった。
金曜日の夕暮役人のうち数人が上陸した。しかし高官のものではない。彼らはキャプテンブルックおよびその友達に市中を案内してもらい、「インタネシヤ」という茶店へ行って料理を食べた。それは汁、肉、鳥類、種々の品で気味わるがりながらも、よく食べたが、米国のスプーン、フォークなどはしまいには箸と代える始末で、スプーンやフォークの使い方は子供が使うようにぎごちなくおかしい。その後しばらくたって「シャウプ」という菓子屋に参り、米人の食べる雪単子を食べた。そしてシパバイジャのヤンプルックとさきの茶店で待ち受けて面会した】
又別の記事として下記の記事が紹介されている。
【昼食後日本の役人、キャプテンブルックとメシタカーンと同道して船造り場へ行く、彼らはみな造船に志のある者ばかりである。しばらくして日本人は２組に分れ

て、１組は新造船の器械および材木の大小の寸法をはかりとる。おそらく日本で造船の諸道具があれば、その新造船に似た船でも造ろうとするつもりでもあるかのようだ。また彼らはサンソランシスコの機械所、鉄工所なども一目見たいという。日本でもいずれはこうした船を製造するだろう。その時は米人よりも立派に造るかも知れない】　注：日本人がその通りの事を成し遂げた事は周知の事柄である。

冒頭に肥田浜五郎自身はこの米国訪問について、書き物を残していないと述べたが、親友の福沢諭吉が有名なその著『福翁自伝』に、咸臨丸での米国訪問の印象を書き残している。福沢諭吉全集にある該当部分の一部を此処に引用して、当時の青年層の最高知性を代表する福沢諭吉が西洋文明の真っ只中に入って、どの様な印象を抱いたかを観て、今回の原稿を閉じたい。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

ソコで無事に港に着いたらば、サアどうも彼方の人の歓迎というものは、ソレは ソレは実に至れり尽くせり、この上のしようがないというほどの歓迎。アメリカ人の身になってみれば、アメリカ人が日本に来て初めて国を開いたというその日本人が、ペルリの日本行より八年目に自分の国に航海して来たという訳であるから、丁度自分の学校から出た生徒が実業について自分と同じことをすると同様、乃公がその端緒を開いたと言わぬばかりの心持であったに違いない。ソコでもう日本人を掌の上に乗せて、不自由をさせぬように不自由をさせぬようにとばかり、サンフランシスコに上陸するや否や、馬車をもって迎いに来て、取り敢えず市中のホテルに休息というそのホテルには 市中の役人か何かは知りませぬが、市中の重立った人が雲霞のごとく出掛けて来た。様々の接待饗応。それからサンフランシスコの近傍に、メールアイランドという所に、海軍港がある。その海軍港附属の官舎を咸臨丸 一行の止宿所に貸してくれ、船は航海中なかなか損所が出来たからとて、ドックに入れて修復をしてくれる。逗留中はもちろん彼方で賄も何もそっくりしてくれる筈であるが、水夫をはじめ日本人が洋食に慣れない、矢張り日本の飯でなければ食えないというので、自分賄という訳けにしたところが、アメリカの人はかねて日本人の魚類を好むということをよく知っているので、毎日々々魚を持って来てくれたり、あるいは日本人は風呂に這入ることが 好きだというので、毎日風呂を立ててくれるというような訳け。ところでメールアイランドという所は町でないものですから、折節今日はサンフランシスコに来い と言って誘う。それから船に乗って行くと、ホテルに案内して饗応するというようなことが毎度ある。
ところが此方は一切万事不慣れで、例えば馬車を見ても初めてだから実に驚いた。そこに車があって馬が付いて居れば、乗物だということは分りそうなものだが、一見したばかりでは一寸と考えが付かぬ。

ところで、戸をあけて這入ると馬が駈け出す。なるほどこれは馬の挽く車だと初めて発明するような訳。何れも日本人は大小をさして穿物は麻裏草履を穿いている。ソレで、ホテルに案内されて行ってみると、絨毯が敷き詰めてあるその絨毯はどんな物かというと、まず日本で言えばよほどの贅沢者が一寸四方幾干という金を出して買うて、紙入れにするとか 莨入れにする とかいうようなソンナ珍しい品物を、八畳も十畳も恐ろしい広い所に敷き詰めてあって、その上を靴で歩くとは、さてさて途方もないことだと実に驚いた。 けれどもアメリカ人が往来を歩いた靴のままで颯々と上がるから此方も麻裏草履でその上に上がった。上がると突然酒が出る。徳利の口をあけると恐ろしい音がして、まず変なことだと思うたのはシャンパンだ。そのコップの中に何か浮いているのもわからない。 三、四月暖気の時節に氷があろうとは思いも寄らぬ話で、ズーッと銘々の前 にコップが並んで、その酒を飲む時の有様を申せば、列座の日本人中で、まずコップ に浮いているものを口の中に入れて、胆を潰して吹き出す者もあれば、口から出さず にガリガリ噛む者もあるというような訳けで、ようやく氷が這入っているということ
がわかった。ソコでまた煙草を一服と思ったところで、煙草盆がない、灰吹きがないから、そのとき私はストーヴ の火で一寸と点けた。マッチも出ていたろうけれども、マッチも何も知りはせぬから、ストーヴで吸い付けたところが、どうも灰吹きがないので吸殻を捨てる所がない。それから懐中の紙を出してその紙の中に吸殻を吹き出して、念を入れて揉んで火の気のないようにねじ付けて袂に入れて、 しばらく
してまた後の一服をやろうとするその時に、袂から煙が出ている。何ぞ図らん、能く消したと思ったその吸殻の火が紙に移って煙が出て来たとは大いに胆を潰した。
すべてこんなことばかりで、私は生まれてから 嫁入りをしたことはないが、花嫁が勝手のわからぬ家に住み込んで、見ず知らずの人に取巻かれてチヤフヤ言われて、笑う者もあれば雑談を言う者もあるその中で、お嬢さんばかり独り静かにしてお行儀を繕い、人に笑われぬようにしようとして却ってマゴツイテ顔を赤くするその苦しさはこんなものであろうと、凡そ推察が出来ました。日本を出るまでは天下独歩、眼中人なし怖い者なしと威張っていた磊落書生も、初めてアメリカに来て花嫁のように小さくなってしまったのは、自分でも可笑しかった。それから彼方の貴女紳士が打ち寄り、ダンシングとかいって踊りをして見せるというのは毎度のことで、さて行って見たところが少しもわからず、妙な風をして男女が座敷中を飛びまわるその様子は、どうにもこうにもただ可笑しくて たまらない、けれども笑っては 悪いと思うから成るたけ我慢して笑わないようにして見ていたが、これも初めの中は随分苦労であった。

特定非営利活動法人　日本海洋塾
＜NPO　Meijimaru　Memorial　Academy＞
事務所：〒135－8533東京都江東区越中島2－1－6
東京海洋大学越中島会館2F
TEL：03-6458-5272
FAX：03-6458-5272
E-Mail：kaiyojuku5122@train.ocn.ne.jp
ホームページURL：http://kaiyou-juku.org